

健康メディカル学部 心理学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下 CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。

【教育方法】

心理学科では、人の心のはたらきや不思議について多角的な観点から総合的に学び、実学の精神を培います。1年次には基礎心理学を中心に心理学的概念や知識、理論を学ぶと同時に、主体的な学びの要素を取り入れ、実践力を育てていきます。2年次以降は、社会に出たときに役立つ心理学や、現在の社会課題の問題解決を目指し、自発的に問いを立てて、データを収集し読み解く力を習得していきます。4年間の総合的な学びによって心理学的な見方を身につけることで、現状を打破する実践力、そして挑戦する人間力を高めていきます。

【教育の特色ある工夫】

- ・ 人間理解に関する知識を深め、複雑な現代社会に貢献できるように、セミナー教育では、マナーやコミュニケーション能力の向上、将来のキャリア形成の動機づけに力を入れています。主体性や協調性、コミュニケーションスキルの醸成を図るため、授業にグループワークや発表を多く取り入れています。
- ・ 1年次よりキャリア教育に力を入れ、個々へのキャリア形成支援や丁寧な個別指導を通して、心理職を目指す学生から一般就職を目指す学生まで、学生の希望に沿った幅広いサポートを行っています。
- ・ 3年次の「心理学研究Ⅰ・Ⅱ」では、少人数のゼミ形式の演習を行い、研究の基礎を学ぶと同時にプレゼンテーションやディスカッションの能力を磨いています。そしてそれを4年次の「卒業研究」に繋げています。
- ・ 学科創設以来、学生にボランティア活動を推奨しており、社会との繋がりをもつ様々な活動を通して心理学の学びを深めています。
- ・ 公認心理師養成カリキュラムにおいて、2年次に本学科独自の「地域援助演習Ⅰ・Ⅱ」を配置し、対人援助の体験学習を通して、3年次の「心理実習」、4年次の「心理演習」へと現場に即した学びを段階的に深めています。
- ・ 卒業後に心理職として幅広く活躍できるように、医療保健、教育、福祉、産業、司法の5領域において豊富な実習先を確保し、実践力の養成を図っています。